

看護部報告

看護部



新築移転から2年目となる今期も、安全な看護提供体制の整備が看護部運営の重要課題である。また、本年はJCI認定の取得を計画しており、組織変革の起点にしたいと考えた。

運営方針は、「安全で質の高いケアを提供する」として4つの目標を設定して活動をした。

1. JCI認定を取得する
2. 経営意識を持つ
3. チーム力の発揮
4. 職員が輝く職場づくり

活動の詳細はBSCシートを参照

【顧客の視点】の戦略目標は2つ、①職員満足度の向上、②患者満足度の向上をあげた。

①の職員満足度の評価は退職率と職務満足度とした。

昨年の意向調査のニーズを受け4月から3人夜勤体制を4人体制にした。また、期限付き看護師の採用を中止し職場内の就業環境の不満に対応した。退職率は1%減。今年度意向調査では超過勤務の負担の声が多く聞かれた。JCIの影響もあるが労働環境の見直しが今後必要。

②の患者満足度の評価は、①接遇指導者の育成、②患者満足度調査1位。

接遇トレーナー認定者研修への参加5名。認定者としては次年度継続研修へ。

看護職員数は多いため看護部接遇委員会を組織して部門活動を強化したが、マニュアルの順守率60%台。次年度も対策を強化する。患者満足度オリンピック調査延期。

【財務の視点】の戦略目標は2つ、①診療報酬改定に適応、②退院調整の強化をあげた。

①の評価基準は新たな看護職員夜間配置加算12:1、急性期看護補助加算25:1の取得等とした。しかし職員採用停止に伴い11月に基準を取り下げた。また、中央部門では10月にNICU6床をオープンした。

②の評価基準は病院の経営目標の数値をあげた。4月から病床数が32増床し574床となった。NICU・救命センターなど急性期特化を進める過程では後方施設の確保や連携が重要になる。介護・福祉施設を理解し連携をスムーズにする目的から、子施設で研修をおこない57名が参加した。

病床コントロールは、入退院の偏り、長期入院患者など多くの課題がある。病床管理委員会と連携し、組織システムとしての改善を次年度の取組とする。

【内部プロセスの視点】の戦略目標は5つ、①経営意識の強化、②新人教育体制の強化、③JCIスタンダードに沿った環境整備、④安全な看護の提供、⑤看護の専門性の発揮をあげた。

①の評価基準は1領域10%の削減とした。業務員会で薬品と資材の2領域を対象に改善を図った。看護師による薬品破損・破棄数はデータの把握に止まったが、45~37件で10%削減になった。資材は配置数外(29)・高額品目(11)に着目し、配置変換しデッドストック77万の無駄を予防した。

②の評価基準は新人退職率15%以下とした。教育プログラムに沿った教育科目は実施したが、評価ができなかった。JCIとの整合が課題になった。新卒退職率は10%、新人基礎チェックリストの達成率60%、2年次でのフォローアップと今後に向けてJCIに連

動した教育体制とプログラムの再検討が必須。

③の評価基準はJCI認定取得とした。JCIプロジェクト委員会には看護部の体制を整え参加。院内と看護部の一体化を図った。10月認定取得。看護ケア(計画・記録等)システムが今後の課題である。同月、病院機能評価V6を受診し更新を行った。

④の評価基準は転倒・転落2%以下とMEWSの導入とした。MEWSはシステムの関係で延期。転倒・転落の防止はIPSGの課題でもあり、アセスメントやリストバンド、ピクトグラム導入などの対策を実施し3.18%であった。対策を継続する。

⑤の評価基準は認定・資格者の増員と学会発表の推進とした。臨床指導者講習会受講終了4名、疼痛緩和・感染認定申込み、IVR4名の申込みを行った。

【学習と成長の視点】の戦略目標は2つ、①スタッフの知識技術の向上、②管理者のマネージメントの向上をあげた。

①の評価基準は新人基本技術チェックリスト80%達成、クリニカルラダー評価の基準値設定、匠ナースの認定とした。教育プログラムの一環として院内認定プログラムの導入を目指したが、匠ナースの計画は未実施。原因はJCIに適合する教育評価と現状の

教育評価の適合に時間を要したこと、教育担当業務量の評価や調整が機能しなかった点にある。

②の評価基準はとワークショップ実施回数と師長チェックリスト評価とした。

4月から11月は集中してJCIに関する内容を責任者会で実施。管理者の知識の向上と周知徹底力を強化した。年間計画通り実施した。

師長チェックリストは未実施。評価表のみ作成。次年度活用とする。

総括

1. JCI認証を取得したことで今後の改善活動の評価基準が明確になった。看護記録システムが課題である。
2. 教育体制は職務規定の評価と連動してプログラムの点検・再構築が必要である。人材育成が急務である。
3. 職務満足を高めるためには労務環境の改善が必要である。適正人員・適正配置を進めるために業務量調査を次年度実施する。

平成24年度看護部教育計画 レベルⅠ 実施結果

研修テーマ	研修日時	目 標	内容・方法	講師・アドバイザー	参加人数
1) 入職前ゼミ	3月20日(祝)	・技術を安全に提供することを体験を通して理解する ・衛生的な手洗いを習得する	技術演習	大澤副看護部長、 田村師長、 望月主任、 23年度教育委員 糖尿病療養士 (佐藤主任、手塚主任、 宮澤副主任)	107名
	3月25日(日)		衛生的な手洗い		
	4月1日(日)	・体位変換、血糖測定・インスリン注射を安全に行う方法を学び、理解する	体位変換、血糖測定・ インスリン注射		
	9:00～17:00		講義・演習		
2) 電子カルテ研修	3月26日(月)～30日(金) 9:00～17:00	・院内電子カルテシステムについて理解する ・電子カルテの基本操作がわかる		業務委員会	107名

研修テーマ	研修日時	目 標	内容・方法	講師・アドバイザー	参加人数
3) 新入職者 全体研修	4月2日(月) ～4日(水) 9:00～17:00	・入職式、オリエンテーションに参加することにより、病院の理念、概要を理解する ・病院職員としての心構え、規則について理解できる ・医療安全、感染管理について院内の活動が理解できる ・個人情報保護について基本的な知識がわかる ・JCI取得の意味を理解できる ・BLSを体験し修了する ・病院見学で施設の概要がわかる	病院の理念・概要の説明 医療安全・感染防止 就業規定・施設見学 JCI取得 BLS 講義・演習	総務課	107名
4) 看護部 オリエンテーション	4月5日(木) 9:00～14:00	・看護部の理念、目標、概要、教育体制等について理解する ・感染防止の必要性を理解する ・病院職員としての接遇を理解する ・医療安全、感染管理について院内の活動が理解できる ・カウンセラーの活動を知る	看護部の理念・目標 説明 教育体制・医療安全 の説明 感染防止・接遇 カウンセラーの紹介 説明 講義・演習	遊佐副院長 佐々木看護部長 工藤教育委員長 地域：木内師長 カウンセラー：加藤氏 資材課：佐藤主任 オンコ口： 五十嵐師長 他	107名
5) 看護必要度研修	4月12日(木) ①13:00～15:00 ②15:00～17:00	・看護必要度の必要性を理解する	看護必要度の講義	島袋副看護部長	107名
6) 看護技術(Ⅰ)	4月7日(土) 4月8日(日) 9:00～17:00	・採血・筋注・皮下注を安全に行うことが理解でき実施できる ・口腔ケアの大切さがわかり安全な方法を理解する	体験学習・講義 2回に分ける	手塚主任(外来) 奈良主任(8F) 業者	107名
7) 看護技術(Ⅱ)	4月16日(月) 4月17日(火) 4月19日(木) 8:30～13:00	・酸素ボンベ・輸液ポンプ、シリンジポンプの操作方法がわかる ・酸素療法、SPOモニターを理解する ・安全な使用方法を理解する ・吸引の手技を学ぶ	講義・体験学習 3回に分ける	ME：高室主任 呼吸療法部： 西野氏、鵜川氏	107名
8) 看護技術(Ⅲ)	4月26日(木) 17:30～19:00	・患者の観察に必用なフィジカルアセスメントについて理解する (バイタルサイン・観察)	フィジカルアセスメントの講義	DR：西口	107名
9) 1か月 フォローアップ 研修	5月7日(月) 9:00～12:30 13:30～17:00	・1か月期を修了し今後の看護上の課題を明らかにする ・同期との情報交換を行い今後の意欲に繋げる	グループワーク 2グループにわける	工藤副看護部長	107名
10) 看護技術(Ⅳ)	5月10日(木) 13:00～17:00	・NANDA看護診断を理解する ・看護記録のポイントを理解する	NANDA看護診断： 講義 看護記録：講義	積善会：棚橋教員 記録委員：小幡主任	107名
11) 看護技術(Ⅴ)	5月14日(月) 5月16日(水) 5月17日(木) 13:00～19:00	・接遇の実際を学ぶ ・夜勤業務の流れと注意点とコミュニケーションの重要性を理解する ・患者移送・患者移乗を安全に行う方法を理解する	接遇：体験学習 夜勤業務とコミュニケーション：講義 患者移送・患者移乗：体験学習 3グループにわける	工藤副看護部長 リハビリテーション 根本主任	107名

研修テーマ	研修日時	目 標	内容・方法	講師・アドバイザー	参加人数
12) 看護技術 (VI)	5月21日 (月) 9:00～12:30 13:30～17:00	・心電図モニターの取扱いを知る	心電図モニターの取扱い：体験学習	島袋副看護部長	107名
13) 看護技術 (VII) 講義のみ	6月7日 (木) 6月8日 (金) 10:00～17:00	・安全な静脈注射を知る ・輸血療法・麻薬の取扱いを知る	静脈注射：講義 輸血療法・麻薬の取扱い：講義 2グループにわける	宮坂主任 検査科：三村主任 薬剤部：米山主任	106名
14) 看護技術 (VIII)	6月22日 (金) 6月25日 (月) 13:00～17:00	・防災体制と災害時の対応を理解する	防災体制と災害時の対応：講義 2グループに分ける	曾根主任、 奈良唯唯子 (ER)	106名
15) 3か月 フォローアップ 研修	7月20日 (金) 7月21日 (土) 9:00～17:00	・3か月フォローアップ研修で次への課題を明確にする ・院外研修 (鎌倉散策) で情報交換の場を持つことで今後の意欲に繋げる	3ヶ月フォローアップ：グループワーク 2グループに分ける 院外研修：体験学習	遊佐副院長 佐々木看護部長 工藤副部長	105名
16) 合併症看護① 褥瘡管理と誤嚥 防止	7月30日 (月) 8月6日 (月) 13:00～19:00	・患者の観察に必要なフィジカルアセスメントを理解する ・褥瘡管理の実際を知る ・誤嚥予防を理解する	フィジカルアセスメント：講義 (腹・肺) 褥瘡管理：講義 誤嚥予防：講義 2グループにわける	奈良唯唯子 (ER) WOC： 田村師長、望月主任 ST：三浦氏	105名
17) 合併症看護と 接遇	8月27日 (月) 9月3日 (月) 13:30～17:00	・合併症看護を理解する (創感染・せん妄・麻酔) ・接遇の実際を学ぶ	合併症看護 (創感染・せん妄・麻酔)：講義 接遇：体験学習 2グループにわける	石井早苗 (ICU) 鈴木主任	105名
18) 医療安全研修	9月11日 (火) 9月18日 (火) 13:00～17:00	・危険予知訓練 (転倒・転落他) を体験し (創感染・せん妄・麻酔) 安全を図ることを理解する	危険予知訓練 (転倒・転落他)：講義・体験学習 2グループにわける	東山久美子 (医療安全)	105名
19) 6か月 フォローアップ 研修	9月28日 (金) 10月25日 (木) 13:00～17:00	・6か月フォローアップ研修で課題を明らかにする	6か月フォローアップ：グループワーク 2グループにわける	工藤副看護部長	105名
20) NANDA 看護診断	10月11日 (木) 12月18日 (火) 13:00～17:00	・NANDA看護診断を理解する	NANDA看護診断：講義 2グループにわける	積善会：棚橋教員	99名
21) 呼吸器看護	12月4日 (火) 12月18日 (火) 1月8日 (火) 1月15日 (火) 13:00～17:00	・呼吸器看護を理解する	呼吸器看護：講義 4グループに分ける	呼吸療法部： 鵜川主任、一條氏	99名
22) 合併症看護	2月18日 (月) 2月20日 (水) 18:00～19:00	・関節可動域訓練の必要性を理解する	関節可動域訓練：講義・体験学習 2グループにわける	PT：根元主任	99名
23) 12か月 フォローアップ	2月23日 (土) 3月2日 (土) 17:30～19:00	・12か月フォローアップ看護観発表：「患者さんから貰った宝物」を行い自己成長と課題が明らかになる	看護観発表：成長の共有発表会 2グループにわける	教育委員会	103名

平成24年度看護部教育計画 レベルⅡ 実施結果

研修テーマ	研修日時	目 標	内容・方法	講師・アドバイザー	参加人数
1) 救急看護	5月28日(月) 5月29日(火) 9:00～17:00	・救急時の対応を学び、技術習得ができる	講義・演習 *2日間をAとBで病棟と 研修参加者にわかれる	曾根主任	53名
2) NANDAの 看護診断	6月11日(月) 13:30～17:00	・ケーススタディに向けて看護診断の理解を深める	講義・演習	工藤副看護部長	50名
3) 医療安全	7月12日(木) 13:00～17:00	・主体的に医療安全を考えることができる	講義・演習 事例検討	医療安全：宮坂主任	47名
4) リーダー研修	8月21日(火) 14:00～17:00	・夜勤リーダーにむけて、業務手順を理解する ・リーダーシップについて学び、意欲、自覚を図る ・リーダーとしての接遇を理解することができる	講義	秋山師長	46名
5) チーム医療と コミュニケーション	9月10日(月) 13:00～17:00	・コミュニケーションスキル向上ができる ・コミュニケーション技術の向上ができる ・チーム医療のためのコミュニケーション技術について理解できる	講義・演習	臨床心理士：松本氏	45名
6) 工場見学	11月9日(金) 8:30～17:00	・テルモ機器の製造過程、ものづくりの視点を学ぶ ・同期との交流を深め、今後の意欲につなげる ・他施設を見学することで、自己の視野を広げ看護につなげることができる	講義	研修エスコート： 門脇師長 宮澤(14F)	46名
7) ケーススタディ のまとめ方	11月19日(月) 17:30～19:30	・研究的態度を養う ・ケーススタディの意義、方法について理解する ・事例検討を通し、看護の在り方を学ぶ ・論文、レポートの書き方について理解できる	講義・演習	工藤副看護部長 研修担当：曾根(4S)	46名
8) 合併症看護① 呼吸器管理と 早期離床	1月31日(木) 17:30～19:30	・呼吸器患者の感染予防を理解することができる ・呼吸器患者のフィジカルアセスメントをすることができる	講義	石井早苗(ICU) 研修担当：奈良(8F)	44名
9) プリセプター シップ	2月25日(月) 17:30～19:00	・プリセプターシップについて理解する ・プリセプターの役割に向けて準備できる	講義	中山師長 研修担当：奈良(8F)	46名
10) ケーススタディ 発表会	3月20日(水) 3月22日(金) 8:30～17:00	・ケーススタディ発表をし、プレゼンテーション技術を学ぶ ・それぞれの事例の看護を共有し、看護を学ぶ	発表・プレゼン	研修担当：奈良(8F)	39名

平成24年度看護部教育計画 レベルⅢ 実施結果

研修テーマ	研修日時	目 標	内容・方法	講師・アドバイザー	参加人数
1) 看護研究について	5月25日(金) 13:30～17:00	・看護研究の概要を理解できる ・グループにて看護研究のテーマについて話し合い、方向性を決めることができる	看護研究の概要 研修計画書の作成方法 講義・演習	工藤副部長	42名
2) 急変時の看護① データの見方	5月25日(金) 17:30～19:00	・血液ガス・電解質を中心に理解する	講義	内科医：腎内DR	48名
3) プリセプター フォロー研修	6月15日(金) 13:00～17:00	・プリセプターとしての悩み・思いを共有できる ・プリセプターの役割を再確認できる	グループワーク	工藤副部長	43名
4) リーダーシップ 研修(1)	7月19日(木) 13:00～17:00	・売り上げと平均在院日数について理解する ・チームリーダーとしての役割を学び、リーダー業務としての役割を理解する ・病床管理について理解できる	講義	青木次長 工藤副部長	46名
5) 離島研修	7月6日～8日 7月27日～29日 9月7日～9日	・離島にある診療所、病院を見学し、離島業務としての役割を理解する ・沖縄散策をし、リフレッシュできる	離島の医療を学ぶ 3日間	引率： 奈良(ER) 木内師長 長曾我部師長	34名
6) プリセプター フォローアップ(2)	10月15日(月) 14:00～17:00	・プリセプターとしての役割を振り返り課題を明確にできる	講義・ グループワーク	工藤副看護部長 教育担当：曾根	29名
7) 急変時の看護	1月25日(金) 1月29日(火) 2月12日(火) 9:00～17:00	・ACLSを理解し行動できる	講義・演習	曾根主任	16名 10名 11名 計37名
8) 看護研究発表会	3月9日(土) 14:00～19:00	・看護研究発表を聴講し、情報を共有できる ・研究発表のプレゼンテーション技術の実際をまなぶ ・看護研究発表から自己の看護を振り返る事が出来る	看護研究のまとめ・ 発表	教育委員会	42名

平成24年度看護部教育計画 レベルⅣ 実施結果

研修テーマ	研修日時	目 標	内容・方法	講師・アドバイザー	参加人数
1) DPC、診療報酬	6月15日(金) 17:30～19:00	・今年度の診療報酬改正のポイントを理解することができる ・DPCの理解を深めることができる	講義	青木次長	38名
2) ストレス マネジメント	7月11日(水) 17:30～19:00	・自分のストレスを理解し、対処方法を学ぶ	講義	松本臨床心理士	26名
3) がん看護	7月27日(金) 17:30～19:00	・がん化学療法についての理解を深める	がん化学療法 講義	高部認定看護師	13名
4) 地域連携について	10月29日(月) 17:30～19:30	・地域連携活動の理解を深める ・病院と在宅の関連を考えることができる	講義	木内師長 笹本主任	38名

平成24年度看護部教育計画 レベルV 実施結果

研修テーマ	研修日時	目 標	内容・方法	講師・アドバイザー	参加人数
1) マネージメント 研修 ①保健医療福祉政策 ②診療報酬	6月15日(金) 17:30～19:00	・看護を取り巻く医療政策、方針を学ぶ ・今年度の診療報酬改正のポイントを理解する	講義	医事課：青木次長 守屋主任	10名
2) 看護サービスと リーダーシップ	6月19日(火) 17:30～19:00	・看護サービスについて考えることができる ・管理的視点に基づいて、リーダーシップの役割を理解する	講義	佐々木看護部長	19名
3) 看護理論	7月6日(金) 17:30～19:00	・看護とは何かを、理論を通し考察する ・自己の看護をふり返る	看護理論の講義 レポート提出 文献学習	工藤副看護部長	8名
4) ストレス マネジメント	7月11日(水) 17:30～19:00	・自分のストレスを認識し対処方法を学ぶ	講義	松本臨床心理士	12名
5) プレゼンテーション技術	9月26日(水) 17:30～18:30	・プレゼンテーション技術を学び現任教育に活かすことができる ・情報管理を行うことができる	講義 演習	情報管理室	9名
6) リーダーに 求められる ①感染管理 ②医療安全	①10月31日(水) 18:00～19:00 ②11月7日(水) 18:00～19:00	・管理者としての感染管理について理解を深める ・管理者としての求められる医療安全について学ぶ	講義	①大澤副看護部長 ②東山看護師	23名
7) 退院調整技術	11月2日(金) 17:30～19:00	・管理者として退院調整の技術について理解することができる	講義	秋山師長	11名
8) コーチング	11月16日(金) 13:00～17:00	・コーチング技法を理解し、スタッフと円滑なコミュニケーションを取ることができる	講義 演習	神谷和宏先生	24名
9) 業務改善	5月～12月	・自部署の課題を明確にし業務改善を図ることができる ・行った業務改善を発表する事ができる	業務改善 発表		42名

平成24年度看護部教育計画 その他

研究テーマ	研修日時	対象者	目 標	内容・方法	講師・アドバイザー	参加人数
補助者教育						
1) 病院機能・組織の理解と医療制度の概要	7月13日(金) 17:00～18:00	看護補助者	・補助業務の質向上を目指す	講義・演習	青木次長	16名
2) 接遇・個人情報	8月10日(金) 17:00～18:00	看護補助者	・補助業務の質向上を目指す	講義・演習	木内師長	
3) 移動・移送技術	9月25日(火) 17:00～18:00	看護補助者	・補助業務の質向上を目指す	講義・演習	リハビリ：根元主任	
4) 食事介助・口腔ケア	10月18日(木) 17:00～18:00	看護補助者	・補助業務の質向上を目指す	講義・演習	ST：三浦さん	

研究テーマ	研修日時	対象者	目標	内容・方法	講師・アドバイザー	参加人数
5) おむつ交換・体位変換	11月30日(金) 17:30～18:30	看護補助者	・ 補助業務の質向上を目指す	講義・演習	WOC：望月主任	
6) 医療安全	12月27日(木) 17:30～18:30	看護補助者	・ 補助業務の質向上を目指す	講義・演習	築山医師	
職員全員対象・中途採用						
1) 既卒入職者研修 看護必要度	4月9日(月) ①13:00～15:00 ②15:00～17:00	4月入職者 (既卒)	・ 看護必要度の理解ができ、実践で活用できる	講義 (2グループにわかれる)	島袋副部長	
2) フォローアップ研修	8月20日(月) 17:00～18:30	5月以降の入職者対象	・ 情報共有し、問題解決にむける	グループワーク	工藤副部長	23名
4) 高齢者看護	9月12日(水) 17:30～19:00	看護師全員	・ 高齢者の看護の実際がわかる	講義・ロールプレイング	門脇師長	40名
3) 看護必要度 NANDA看護診断	11月29日(木) 13:00～17:00	H24年度中途採用者 (既卒)	・ 看護必要度、看護診断の理解ができ、実践で活用できる	講義・演習	中山師長 工藤副部長	

平成24年度 院外研修一覧

研修会名	参加人数	研修日	主催	開催場所
看護必要度評価者院内指導者研修	5名	4月21日	東京都看護協会	埼玉地域看護研修センター
4年目研修	2名	5月11日		
第76回放射線看護過程	1名	5月14日～18日	放射線医学総合研究所	放射線医学総合研究所
CAPDの会	1名	5月26日	湘南鎌倉総合病院 CAPDの会	静岡県伊豆市
実習指導者研修会	1名	6月1日～18日	登校回数：1日/週	北里大学(実習:北里大学看護学部)
褥瘡予防とケアの実践	2名	6月4日	神奈川県看護協会	神奈川県ナースセンター研修室
看護判断の理解と活用、そして援助開発への道筋	2名	6月9日	講師：江川隆子	東京西徳洲会病院
看護診断学習会(関東ブロック)	3名	6月9日	東京西徳洲会病院・中沢病院	東京西徳洲会病院
一人ひとりが取り組む感染予防対策	3名	6月18日	神奈川県看護協会	神奈川県総合医療会館 7F講堂
看護部長・副部長に求められる看護管理	1名	6月21日	日本看護協会	神奈川県ナースセンター研修室
よくわかる！高次脳機能障害	1名	6月29日	神奈川県看護協会	神奈川県総合医療会館
糖尿病足病変看護従事者研修	1名	7月3日～6日	神奈川県看護協会	神奈川県総合医療会館
離島病院見学研修	12名	7月6日～8日	看護部教育委員会	奄美大島、沖縄
ホスピタリティー研修	5名	7月6日～7日	JTB	石川県七尾市(加賀屋旅館)
マタニティ・ヨーガ指導者育成ベーシックコース	2名	7月12日～13日	日本マタニティ・ヨーガ協会	三鷹産業プラザ
透析療法従事職員研修	1名	7月21日～22日	公益財団法人 日本腎臓財団	大宮ソニックシティ

研修会名	参加人数	研修日	主催	開催場所
離島病院見学研修	10名	7月27日～29日	看護部教育委員会	奄美大島、沖縄
リフレクション研修	5名	7月28日	徳洲会グループ	静岡徳洲会病院
離島病院見学研修	1名	7月28日～30日	看護部教育委員会	奄美大島、沖縄
小児救急の現状と看護の実際	1名	9月5日～6日	神奈川県看護協会	神奈川県看護協会 第1研修室
災害看護研修	5名	9月7日～8日	四街道徳洲会病院	四街道徳洲会病院
離島研修(レベル3)	6名	9月7日～9日	看護部	奄美大島
保健師助産師看護師実習指導者講習会	1名	9月8日		東海大学
保健師助産師看護師実習指導者講習会	1名	9月12日～14日		
離島病院見学研修	1名	9月14日	看護部教育委員会	奄美大島、沖縄
保健師助産師看護師実習指導者講習会	1名	9月19日～21日		東海大学
中間管理者研修	5名	9月21日	徳洲会看護部	東京西徳洲会病院
保健師助産師看護師実習指導者講習会	1名	9月25日～28日		東海大学
教育研修B群「進化する外来看護」	1名	9月29日	神奈川県看護協会	神奈川県ナースセンター研修室
H24年度児童虐待の予防及び早期発見対応の為に関係機関連絡会	1名	10月9日		横須賀市役所
中間管理者研修	2名	10月19日～20日	徳洲会看護部	東京西徳洲会病院
リーダナーサスのためのフィジカルアセスメント～呼吸器系・循環器系・中枢神経系～①	3名	10月24日～25日	神奈川県看護協会	神奈川県総合医療会館
訪問看護、老人福祉施設等の体験・見学	3名	11月1日	看護部 病床管理委員会	特別養護老人ホーム かまくら愛の郷
訪問看護、老人福祉施設等の体験・見学	1名	11月3日	看護部 病床管理委員会	老人保健施設 リハビリケア湘南かまくら
個別化医療推進プロジェクトMC講習会	2名	11月3日	東京大学医科学研究所	東京大学医科学研究所
訪問看護、老人福祉施設等の体験・見学	3名	11月3日	看護部 病床管理委員会	老人保健施設 かまくら
ナーシングバイオメカニクス 初級研修	6名	11月4日	徳洲会グループ	東京西徳洲会病院
ナーシングバイオメカニクスに基づく自立のための生活支援技術	5名	11月4日～5日	徳洲会グループ	東京西徳洲会病院
訪問看護、老人福祉施設等の体験・見学	1名	11月7日	看護部 病床管理委員会	老人保健施設 かまくら
看護・介護の現場に活かす認知症の知識	1名	11月8日	神奈川県看護協会横須賀支部	ヴェルグ横須賀
看護研究の基礎	2名	11月10日	徳洲会看護部	葉山ハートセンター
訪問看護、老人福祉施設等の体験・見学	2名	11月15日	看護部 病床管理委員会	老人保健施設 リハビリケア湘南かまくら
訪問看護、老人福祉施設等の体験・見学	4名	11月17日	看護部 病床管理委員会	老人保健施設 かまくら
がん看護症例発表会	1名	11月22日	徳洲会グループ	湘南藤沢徳洲会病院

研修会名	参加人数	研修日	主催	開催場所
教育研修C群 新人ナースのための フィジカルイグザミネーション・ フィジカルアセスメント①	2名	11月28日	神奈川県看護協会	神奈川県看護協会
訪問看護、老人福祉施設等の体験・ 見学	1名	11月29日	看護部 病床管理委員会	特別養護老人ホーム かまくら愛の郷
リーダナースのためのフィジカル アセスメント～呼吸器系・循環器系・ 中枢神経系～②	2名	11月29日～30日	神奈川県看護協会	神奈川県総合医療会館
教育研修C群 「新人のためのコミュ ニケーション～自分を表現できるよ うになるためには～」	1名	12月4日	神奈川県看護協会	神奈川県ナースセンター研修室
横須賀支部看護研究発表会	3名	12月8日	神奈川県看護協会 横須賀支部	ヴェルグ横須賀
看護必要度評価者 院内指導者研修	7名	12月9日	S-QUE研究会日本臨床看護 マネジメント学会	ベルサール新宿 セントラルパーク
教育研修C群 「中堅看護職研修」	1名	12月11日	神奈川県看護協会	神奈川県ナースセンター研修室
訪問看護、老人福祉施設等の体験・ 見学	2名	12月13日	看護部 病床管理委員会	愛心会訪問看護ステーション
保健指導士更新研修会	1名	12月16日	(社)全日本病院協会	ベルサール九段
訪問看護、老人福祉施設等の体験・ 見学	3名	12月20日	看護部 病床管理委員会	愛心会訪問看護ステーション
医師事務作業補助者研修	1名	12月22日～23日	日本病院協会	笹川記念病院
電子化クリニカルパスシステム見学	1名	12月27日～28日	中部徳洲会病院	中部徳洲会病院
教育研修D群 「がん緩和ケアにおける看護の役割」	1名	1月9日～10日	神奈川県看護協会	神奈川県ナースセンター研修室
教育研修D群 「災害看護研修(実務編)②」	1名	1月16日～17日	神奈川県看護協会	神奈川県ナースセンター
看護研究発表会	2名	1月19日	徳洲会 看護部	鎌ヶ谷総合病院
第80回放射線看護課程	1名	1月21日～25日	放射線医学総合研究所	放射線医学総合研究所
訪問看護、老人福祉施設等の体験・ 見学	2名	1月24日	看護部 病床管理委員会	老人保健施設 かまくら
第1回手術看護師長研修	1名	1月26日	日本手術看護学会	(株)ホギメディカル
教育研修D群 「初めての実地指導者研修②」	1名	1月28日	神奈川県看護協会	神奈川県ナースセンター
教育研修D群 「高齢者支援と認知症看護」	2名	1月30日	日本看護協会	神奈川県ナースセンター研修室
訪問看護、老人福祉施設等の体験・ 見学	1名	2月5日	看護部 病床管理委員会	愛心会訪問看護ステーション
教育研修D群 「新人ナースのための フィジカルイグザミネーション・ フィジカルアセスメント②」	1名	2月7日	神奈川県看護協会	神奈川県ナースセンター研修室
患者からの暴言暴力対応研修	2名	2月9日	徳洲会グループ	湘南厚木病院
TEAM STEPSS	1名	2月16日～17日	亀田総合病院	亀田総合病院

研修会名	参加人数	研修日	主催	開催場所
教育研修D群 「家族を支援する看護」	1名	2月19日	神奈川県看護協会	神奈川県ナースセンター研修室
退院調整	7名	2月21日	日本看護協会 横須賀	横須賀ウィルシティ
訪問看護、老人福祉施設等の体験・見学	2名	2月26日	看護部 病床管理委員会	愛心会訪問看護ステーション
訪問看護、老人福祉施設等の体験・見学	1名	3月5日	看護部 病床管理委員会	老人保健施設 リハビリケア湘南かまくら
訪問看護、老人福祉施設等の体験・見学	1名	3月7日	看護部 病床管理委員会	老人保健施設 リハビリケア湘南かまくら
THE Mid-Pacific Conference on Birth and Primal Health Research	1名	3月9日		Hawaii, US
訪問看護、老人福祉施設等の体験・見学	1名	3月13日	看護部 病床管理委員会	愛心会訪問看護ステーション

平成24年度 学会発表

開催日	発表者名	開催場所	学会名	題目
H24年				
4月26日～28日	鈴木 春香	福岡国際会議場	第37回日本脳卒中学会総会	急性期脳卒中患者の経鼻経管栄養投与時の体位と炎症反応の変化について
4月26日～28日	押見 友太	福岡国際会議場	第37回日本脳卒中学会総会	Merci Retrieverを使用した血栓回収治療中の血圧管理について
5月21日～25日	鈴木 春香	ヨーロッパ ポルトガル リスボン	脳卒中学会	経管栄養の投与時の体位と誤嚥性肺炎について
6月1日～3日	島袋 朋子	北九州市小倉 西日本総合展示場 新館	第28回小倉ライブ	夜間の緊急対応
6月22日～23日	尾上 綾子 石川 由美	神奈川県 パシフィコ横浜	第12回日本抗加齢学学会 アンチエイジング医学の文明開化	再生医療における専属ナース ～コンシェルジュの役割～
6月22日～24日	坊坂 桂子	北海道札幌市 札幌プリンスホテル	第57回 (社)日本透析医学会学術集会・総会	アンケートからみる血液透析患者の痛み
6月22日～24日	愛甲 美穂	北海道札幌市 札幌プリンスホテル	第57回 (社)日本透析医学会学術集会・総会	透析患者の末梢動脈患者 (PAD) カテゴリー分類と足関節上腕血圧比 (ABI)・足趾上腕血圧比 (TBI) との関連
6月22日～24日	今井みどり	北海道札幌市 札幌プリンスホテル	第57回 (社)日本透析医学会学術集会・総会	終末期血液透析患者の家族支援についての考察
7月11日	清水 修子	神戸国際展示場	2013CVIT	はじめてCAGを受ける患者の不安軽減に向けた検査前オリエンテーションの見直しと実践
7月23日	島袋 朋子	帝京大学医学部	日本IVR学会・CVIT合同学会	心カテ領域に携わる看護師のための認定看護師

開催日	発表者名	開催場所	学会名	題目
9月22日	秋吉 美穂	徳島県 あわぎんホール	第18回日本腹膜透析医学会	腹膜透析患者における災害時の対策 ～災害時勉強会を開催して～
10月19日～20日	島袋 朋子	東京都 大手町 サンケイプラザ	第41回日本心血管インターベンション治療学会 関東甲信越地方会	心カテナースのモチベーションを上げる工夫
10月19日～20日	浅川真裕子	東京都 大手町 サンケイプラザ	第41回日本心血管インターベンション治療学会 関東甲信越地方会	心臓センターに配置された新卒看護師のストレスと指導方法への課題～新たな教育システム作りを目指して～
10月20日	中村 仁美	岩手県 岩手県立大学	第5回岩手看護学会学術集会	メインテーマ：「患者のいのちと生活を支えるケア」 ～同じ経験をした者同士が対面して語り合うことの意義～ 周産期に子どもを亡くした者に焦点をあてて
11月4日	長坂 洋子	名古屋 国際会議場	第25回日本手術看護学会 年次大会	中央材料室の院内業務委託に向けて ～看護師の業務量の把握と問題点の抽出～
11月16日	大田 康江	福岡県福岡市 アクロス福岡	第53回日本母性衛生学会総会	～母性、母と子の健やかな未来のために～ 「出産体験のとらえ方に影響する要因の検討～出産時のコントロール感、助産師のサポートに焦点を当てて～」
H25年				
2月6日	武田紗耶香	ハワイ ホノルル	INTERNATIONAL STROKE CONFERENCE	急性期脳卒中患者の経管栄養投与時の体位と炎症反応の変化について
2月9日～10日	愛甲 美穂	神奈川県 パシフィコ横浜	第11回日本フットケア学会 第5回日本下肢救済・足病学会合同学術集会	フットケアとQOL：QOLを考える ～難治性下肢潰瘍の1症例より～
2月9日～10日	五十嵐愛子	神奈川県 パシフィコ横浜	第11回日本フットケア学会 第5回日本化し救済・足病学会合同学術集会	末梢動脈疾患による潰瘍壊死を呈した透析患者の看護 ～透析センター看護師に出来ること～

看護部：外来部門



外来部門は、各科外来と点滴処置室、内視鏡検査室、放射線科といった、外来診察部門と検査部門から構成されています。昨年度の病院新築移転後も、更に一層外来来院患者数は増え続け、我々外来部門は対応力強化と、検査件数増加への対応及び徹底した事故防止に努めております。各科の専門性が高度化し、新設される外来への対応、総合病院の役割として重症患者の紹介にも対応し、各科に点在する看護師は皆で協力しながら学習を重ね、観察力や技術の向上に研鑽をしています。今年度は新卒看護師10名の配属が有り、外来部門の特徴を活かして専門分野のローテーション教育プログラムを組み、将来様々な分野の外来で活躍できる看護師となれるように、外来全スタッフ一丸となって新卒看護師を大切に育てています。我々外来看護師はこの輝く新卒看護師と共に、患者さんとの一期一会の心を大切に他のスタッフと協力しながら、より一層専門性の高い看護を提供できるように努力を重ねていきたいと思っています。

心臓センター



心臓センターにはHCU9床を含む病床数59床の病棟、4部屋の心臓カテーテル室、循環器・心臓外科外来があります。外来の並びには生理検査室がありワンフロアで検査、入院ができるように集約されています。

心臓カテーテル検査は年間5000件を越え、検査・治療はクリニカルパスで行われています。検査・治療の翌日には心臓リハビリテーションが行われ、看護師から疾患と生活習慣について、PTからは運動指導があります。

ほかに栄養士が栄養指導、薬剤師が服薬指導を行っています。

看護体制は受持ち継続チームナースングと一部機能別看護をとりいれています。

病棟ではクリニカルパスでの短期入院患者のほか心筋梗塞などの急性期、心不全を繰り返す慢性心不全の患者さんや不整脈での治療の患者さんがいます。医師とのカンファレンス、MSW、PTとの合同カンファレンスを行いよりよいケアの提供を努めています。

心臓カテーテル検査室ではINE（インターベンション・ナースング・エキスパート）を取得した看護師が指導にあたっています。心臓カテーテル室でのチーム医療、病棟でのチーム医療、多職種とのコミュニケーションをもち、よりよい看護の提供に取り組んでいます。

4階南病棟

実績

1. 島袋朋子：夜間の緊急対応、小倉ライブデモンストラーション コメディカルシンポジウム, 2012年6月
2. 清水修子：初めてCAGを受けた患者の不安軽減に向けた検査前オリエンテーションの見直しと実践、日本心血管インターベンション学会 ポスターセッション, 2012年7月
3. 島袋朋子：講演 カテ室看護師の役割 合併症急変時対応, TOPIC 2012 2012年7月
4. 島袋朋子：講演 心カテナースのモチベーションをあげる工夫 (INE認定看護師について)、日本心血管インターベンション学会関東甲信越地方会, 2012年10月
5. 浅川真裕子：口述発表 心臓センターに配置された新卒ナースのストレスと指導方法への課題 新たな教育システム作りを目指して、日本心血管インターベンション学会関東甲信越地方会, 2012年10月



4階南病棟は「脳卒中センター」として運営をしています。脳梗塞・脳出血を中心とした脳疾患の患者さんの病床(20床)に加え、脳卒中科・脳外科・脊椎センター外来・脳血管造影室・CT室の介助(造影剤の注入前後の観察)を担っています。病棟20床・外来部門を併せ持つセンター化として運営してきました。看護師：23名、エイド：2名、事務：1名の計26名です。病棟目標は「現場の看護力を高めJCI取得につなげる」「組織・各自の役割を認識し行動できる」「スタッフ1人1人が明確な目標を持ち、自己実現できる」でした。平均在院日数5.9日。急性期脳梗塞の患者さんに対し、7～10日間でリハビリ病院への転院が可能となっています。また2次合併症(誤嚥性肺炎・褥瘡)を発生させないことを徹底し、統一した看護の提供により、24年度も褥瘡発生がない1年でした。病棟では勉強会係を中心に3カ月に1回スタッフからの意見を取り入れ勉強会を企画・運営し、勉強会を行うことができました。また院外への勉強会も積極的に参加する事を心がけ、患者さんの為にスタッフ1名1名がスキルアップし、4階南病棟「脳卒中センター」の看護の質の向上に向け取り組んで来ました。また日々の看護業務に関係あるテーマで、看護研究に取り組み、業務改善を図り、その成果を学会で発表する事ができました。来年度も「質の向上」を念頭に病棟運営・スタッフ教育を行っていきたいと考えています。

6階お産センター

実績

1. 鈴木春香：急性期脳卒中患者の経鼻経管栄養投与時の体位と炎症反応の変化について，第37回日本脳卒中学会総会，2012年4月
2. 押見友太：Merci Retrieverを使用した血栓回収治療中の血圧管理について，第37回日本脳卒中学会総会，2012年4月
3. 鈴木春香：経管栄養の投与時の体位と誤嚥性肺炎について，脳卒中学会，2012年5月
4. 武田紗耶香：急性期脳卒中患者の経管栄養投与時の体位と炎症反応の変化について，INTERATIONAL STROKE CONFERENCE，2013年2月



6階フロアはお産センターで、産科外来と入院病棟20床がある場所です。自然分娩でお産が出来るように、自分の体を生かしたアクティブバース、フリースタイルの分娩を、安全を確保しながら行っています。分娩はリラックスが大切なので、家庭に近い畳の部屋で過ごし、そのまま分娩を家族立ち会いで行います。産婦さんの声を聞き、寄り添えるお産を目指し日々努力しています。

2012年は、リスクの高い方の分娩も増加し、ハイリスク妊婦、正常経過の妊婦、双方の安全性を考えながらお産に取り組んできました。さらに6階のフロア内には、手術室も設置されています。帝王切開の時にも対応できるよう器械出し、外回りが行えるように訓練を始めました。NICUの開設もあり、周産期チームとして色々な産婦に対応できる様、知識も深めスタッフ一丸となりよりよいケアを提供できるよう目指しています。

実績

分娩件数	1166件	
帝王切開	163件	〔14%〕
前回帝王で今回経膈分娩(TOLAC)	46件	〔4%〕
吸引分娩	37件	〔3%〕
助産師のお産	26件	〔2%〕
飛び込み分娩(未受診で分娩のみ)	4件	

7階病棟

7階病棟は外科、婦人科、泌尿器科、形成外科、耳鼻咽喉科、皮膚科、人工膝関節科、腎臓移植外科、乳線外科の57床の外科混合病棟です。

術前、術後看護から終末期看護まで、多くの症例があります。

外科的治療を目的で入院される患者さんが多く、術前オリエンテーションの充実を図り、不安を最小限にするように努めています。また、術後からは積極的に離床を進め、感染の予防に手洗いを徹底し、合併症予防に努め、早期退院が出来るように看護介入に対応しています。

固定チームナーシングを導入し、受持ち看護師が中心となり、チーム間で情報共有を行っています。また、担当看護師が個別性のある看護計画を立案し、日々の継続看護の実践をしています。月1回チーム会、チームリーダー会を開催し、現状の把握と分析、業務の進め方、事例検討などを行い看護師同士の相互理解を深めています。

「固定チームナーシングによる効率の良いチーム作り」「看護の専門性を高める」「スタッフ全員での新人教育育成」「退院支援強化を図り経営意識をもつ」という目標をかかげ、スタッフが一丸となり、看護に取り組んでいます。

8階病棟



8階病棟は外科を診療科とする58床の病棟です。

対象疾患としては、消化器外科、乳腺外科、肝胆膵外科に加え、大動脈疾患、末梢動脈疾患などとなっています。

外科で手術を行う周手術期の患者さんから、ターミナルの方、日帰り手術の方と、様々な患者さんに対応しています。患者さんが、安心して手術を受けることが出来るように、また、円滑な術後の回復に向け患者さんと共にながらんでいます。人工肛門を造設される方には、皮膚・排泄ケア認定看護師と協力し、患者さんのよりよい退院後の生活に向け関わっていけるように努力しています。

医師、看護師、薬剤師、リハビリスタッフなど様々な職種の医療スタッフが、患者さんのために何をしたらいかがを考え、協力していく活気のある病棟です。

9階病棟

9階病棟は病床数57床で脳神経外科、心臓血管外科、眼科の混合外科病棟です。

脳外科では、脳腫瘍、くも膜下出血や未破裂瘤、脳動静脈奇形などの脳血管障害、頭部外傷、また脊椎管狭窄症、椎間板ヘルニアなど脊椎脊髄疾患の手術を行っています。心臓血管外では、狭心症や心筋梗塞、弁膜疾患、胸部大動脈瘤や解離などの大動脈疾患に対する手術をしています。

それぞれ、主に患者さんのQOL向上を目的とする手術が多い病棟であり、患者さんご家族に対し安心して手術が受けられるようケア介入しています。

運動機能障害や意識障害に対しては早期より機能訓練を行っています。カンファレンスの充実に向け各診療科ともに週に1回実施し、患者さんやご家族を中心として関わる医師、リハビリ、MSWなど他職種との情報共有を図り手術後の回復や退院がスムーズに進むよう支援しています。

患者さん一人ひとりに個別的な看護計画を立案し安全安楽、安心の看護を提供出来るよう日々取り組んでいます。

10階病棟

2012年度病棟目標

1. チームナーシングの活性化
2. 患者さんが安心でき、安全な療養環境を提供する
3. スタッフ一人一人が目標を持ちスキルアップを目指す

10階病棟は整形外科・人工膝関節センターの58床の病棟です。

手術前・手術後、回復期と様々な病期の患者さんが入院しています。

整形外科は、高齢化社会を反映し転倒による大腿骨骨折の患者さんが大多数を占めています。また認知症の患者さんも増加しているため、疾患の知識だけでは無く、認知症患者へのケアや、ソーシャルな知識も必要となります。そのため、勉強会係を中心に勉強会を実施しています。

また、運動機能障害のある患者さんが1日でも早く社会復帰できるよう、手術翌日より理学療法士・作業療法士のリハビリテーションを開始しており、看護師も病棟内・ベッドサイドでのリハビリテーションを積極的に行っています。地域連携パスを活用し、回復期リハビリテーション病院への転院を進めるなど、患者・家族・メディカルソーシャルワーカーと連携し、地域病院・施設との協力を図っています。

人工膝関節センターの患者さんには、クリニカルパスを使用し統一した看護と適切なケアが提供できるようにしています。

看護方式は固定チームナーシングと継続受持ち制を導入しており、チームに分かれてカンファレンスを行い、個別性のある看護の提供ができるよう、スタッフ全員で努力しています。

11階病棟



消化器科、肝胆膵科、総合内科、睡眠時無呼吸科の混合内科病棟と、小児病棟を有する52床の病棟です。

消化器科、肝胆膵科のハイリスク治療などに対する診療の補助や、早期離床や身体介護を必要とする方々へのケア提供を行っています。

小児病棟は、15歳以下の乳幼児～学生を対象とし、外科系から内科系まで多種疾患へのケアを提供しています。

看護師の平均年齢は27.7歳。そのうち、新卒者が6名をめていますので、フレッシュな雰囲気の中、多忙な業務をこなしています。

チームナース体制ですので、リーダーシップ、メンバーシップを発揮し、看護チームで他職種と連携しながら、「寄り添うケア」を実践するよう心がけています。

患者さんが一日も早く入院前の環境に帰ることが出来るように、フィジカルアセスメントとともに、日常生活動作への看護ケアを実践し、ニーズが満たされた状態で退院できるよう日々奮闘しています。

12階病棟

展望

12階病棟は総合内科、神経内科、リウマチ科、呼吸器内科の57床の混合病棟です。総合内科は急性期治療に限らず、高齢者のケアが重要となります。そのため、身体的・精神的なアセスメントをするためにも疾患に対する治療・看護まで幅広い知識が必要になります。定期的に勉強会を行い、スタッフが知識の習得から実践に生かせるよう取り組んでいます。また、高齢者ケアの中で退院支援はとても大切です。日常生活動作の低下防止から維持する為に日々、看護ケアを行っています。

また、呼吸器内科は放射線治療を受ける患者さんの看護ケアやIVR、気管支鏡などの検査前後の看護ケアを行います。癌患者さんの看護で終末期に接する機会も増えました。急性期の患者さんに関わりながらも終末期の患者さんに関わる難しさを感じる事もありますが、カンファレンスを行い情報共有やケアの統一化を図るようにしています。

看護体制としては固定チームナースを実践しています。チームリーダーを中心に患者さんの個別性に合わせた看護が展開できるよう日々、カンファレンスで看護計画の立案・見直しを行っています。今後も患者さんのニーズに応え、安心して各々の生活に戻るような看護ケアを実践していきます。

13階病棟



展望

当病棟は57床の、腎臓内科・糖尿病内分泌科・総合内科混合病棟です。

血液透析や腹膜透析の導入、透析患者さんのさまざまな合併症、腎炎や膠原病に対する治療、また糖尿病教育入院やフットケアを行っています。慢性疾患の患者さんが多く入院され、専門性の高い治療や患者指導を実施しています。腹膜透析外来も当病棟の看護師が運営し、入院から外来までの継続看護を実践しています。さらに、12月には当院で生体腎移植がスタートし、移植前後の検査や移植後の患者指導を担うこととなりました。

当病棟に入院される患者さんは高齢の方も多く、治療だけでなく療養生活を支えていけるよう、ご本人・ご家族の意向を確認しながら退院調整し、地域に密着した病床コントロールが求められます。

“病気とともに生きること”を患者さんに教えていただいています。そして病棟内・外での勉強会や研修会に参加しながら専門的な知識を深めていけるよう、日々努力しています。

14階病棟



2012年度 病棟目標

- ①安全・安楽な治療環境の提供と、質の高い看護の提供ができる
- ②各スタッフが主体性を持って看護に取り組み、目標を持って互いに成長しあえる

14階病棟モットー

Safety・Simple・Speedy・Soulful&Smile

主に化学療法を行う患者さんの入院治療を行う病棟として45床(無菌室5床含)で稼働しています。外科・血液内科・呼吸器内科・産婦人科などの患者さんが多く入院し、専門性の高い治療が行われており、看護師は薬剤に関する広い知識、正確な薬剤の実施管理が求められています。

治療で繰り返し入院される患者さんも多く、ご家族を含めた看護ケアが長期に渡ること多々あり、病棟内は患者さん中心の看護が提供できるようにカンファレンスを開いたり、クリスマス回診を行ったり、一人一人の患者さんと誠実に向きあいつつアットホームな雰囲気でご過ごすことができるように心掛けています。個別性を考えた看護展開ができるように日々患者さんとともに病気に向き合って看護しています。

また、がん化学療法認定看護師を中心に、患者さんが抗がん剤プロトコールに沿った治療が安全に受けられるよう、勉強会を開くなどして知識を深めるようにしています。

集中治療室 (ICU/ECU)



診療科別入室状況

心臓血管外科	257名	内 科	102名
脳 外 科	214名	消化器内科	7名
外 科	288名	腎 臓 内科	42名
形 成 外科	6名	肝臓、胆嚢、膵臓内科	6名
整 形 外科	1名	呼吸器内科	5名
膝 関 節 科	1名	神 経 内科	2名
脳 卒 中 科	46名	婦 人 科	4名
循 環 器 科	78名	耳 鼻 科	1名
		平均在室日数	3.92日

当院集中治療室は一般の集中治療室 (General ICU) 10床が2010年度病院移転時から「特定集中治療室管理施設」として認可され、多くの急性期重症患者に対し、集中治療医、集中ケア認定看護師を中心とし、チームでの医療及び看護を提供しています。

当院の特徴の一つに、高度先端医療を行っていること、救急入院が非常に多いことなどがあり、2013年4月に救命救急センターが開設され、救命救急センター集中治療室 (ECU) と一般集中治療室 (ICU) 8床の二つのユニットができました。

そのため最新の患者監視装置や各種の高度医療機器等、ハード面も充実させ、主治医集中治療専門医、集中ケア認定看護師、看護師、理学療法士、臨床工学技師、薬剤師を含め、それぞれの専門性を集約したチーム治療を展開しています。

また、高いアセスメント能力と看護実践力が要求されるため、患者さんの状態を適格かつ迅速にアセスメントできるよう勉強会を開催し知識を深め、個々の患者さんの身体的状況に合わせた質の高い医療・看護が提供できるよう努力しています。

また、心身の危機的状況にある患者さん及び家族への支援はクリティカルケア領域における看護師の重要な役割であり、積極的に介入を行っています。

〈2012年1月から12月までの患者動態〉

総入室患者数：1070名

血液浄化センター



血液浄化センターは感染症患者、重症患者などに対応した個室6床を含む57床からなり、午前透析、午後透析の2クール施行しています。

当施設では、血液透析の他、血漿交換、LDL吸着、PMXなどの特殊療法も実施しています。12月には当院1例目となる生体腎移植も実施され、毎月1例のペースで行われています。

血液透析は、血液を体外循環させ人工腎臓を通り、毒素を取り除いた血液を体内へ戻す工程を4時間行います。これには医療スタッフの知識、技術が必要です。

今年度の目標に知識、技術の向上、安全な医療の提供を掲げています。臨床工学技士も含め先輩看護師から新人看護師への指導、また新人看護師が透析について勉強した事を先輩看護師、臨床工学技士に発表してもらい知識の向上をはかっています。

血液浄化センター防災訓練も実施し、透析中に自己抜針し避難する方法などを取り入れ患者さんとその家族を含めた避難訓練を実施しました。また、11月にはUPS(無停電装置)も設置され、より災害に強い血液浄化センターになりました。

透析患者さんも高齢化し、今まで以上に安全管理が求められます。医療スタッフが協力しより安全な医療、看護を提供していく必要があると思います。

実績

坊坂桂子:アンケートから見る透析患者のかゆみ。

第57回日本透析医学会学術総会, 2012年6月

愛甲美穂

1. ASOフットケアについて, 第4回JET2012モーニングセミナーにて講演, 2012年2月
2. 座長 第10回日本フットケア学会年次学術集会 チーム医療③, 2012年3月
3. 当院のフットケアチーム力〜フットケア指導士の活動報告, 2012年3月
4. 下肢切断を受けた患者の支援〜ナラティブアプローチの実践, 第57回日本透析医学会学術総会, 2012年6月
5. 透析患者の末梢動脈疾患PADのカテゴリー分類とABI・TBIとの関連, 2012年6月
6. 座長 ASO-6
7. 講演 日本フットケア学会岐阜セミナー, 2012年9月
8. 透析患者のフットケア最前線, 2012年9月

糖尿病療養指導室



1. 紹介と今後の展望

療養指導室は、糖尿病内分泌科外来に併設し、担当看護師がインスリン注射や自己血糖測定手技の指導、療養生活上の援助指導を行う診察室として開設しています。担当看護師は糖尿病療養指導士の資格を持ち、曜日毎に継続通院される方のプライマリ・ケアを行い、更に紹介状を持参された初診外来時の自己血糖測定療法導入やインスリン療法導入、他科の医師からの療養指導依頼や病棟看護師からの相談やフットケアの依頼等、当日の臨時指導も積極的に受け付けております。

糖尿病療養指導士の資格は看護師だけでなく他職種も取得できる資格で、院内では管理栄養士や臨床検査技師、リハビリ技師も取得しており、日常業務の中でコ・メディカル同士が共働する機会は難しいのが現状です。しかし年に1回の糖尿病フェスティバルでは、医療職種だけでなく事務スタッフも協力して、参加下さった方々の血糖測定や食事・生活相談、栄養バランスのとれたお弁当の販売を行い、毎年多数の参加者に満足頂いています。

今後の活動として、社会的に糖尿病患者が増え続け当院への紹介患者も増える中、初期指導の大切さを実感しながら日々の外来指導を充実させると共に、看護部内で糖尿病に特化した看護師の存在を重宝して貰える様、病棟や外来、他部署の看護師や他職種の方々と共働出来る様に努めていきます。

2. 業務内容

糖尿病療養指導外来（火曜・水曜・木曜 予約制・院内コンサルトは別）
フットケア外来（水曜・金曜 予約制）
糖尿病教育入院
糖尿病外来教室
公開医学講座

3. 指導実績（2012年1月～12月）

年間療養指導者数	807名（月平均67名）
年間新規療養指導者数	89名
年間自己注射新規導入件数	61件
年間フットケア外来件数	75件
病棟フットケア件数	23件
年間糖尿病教育入院患者数	48名
糖尿病外来教室参加者数	48名

日帰り手術センター



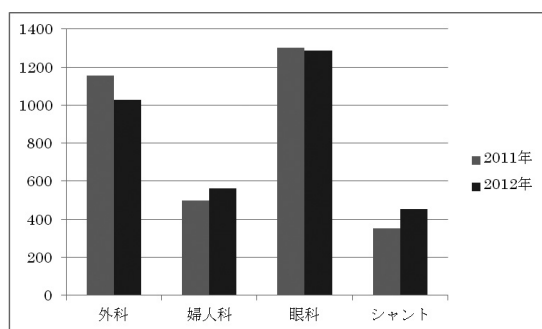
日帰り手術センター 28床

日帰り手術センターでは日帰りの患者さんだけではなく、数日入院される同日入院・手術の患者さんも受け入れており、手術全体件数約7000件の半数は日帰り手術センターが関わっています。

術前後はクリニカルパスに沿ってケアの統一性を図り、患者さんが安心・安楽に手術が受けられる環境を提供できるよう心がけています。

シャント手術が月平均36.8件で、昨年度35.9件より徐々に伸びてきています。

即日手術の対応を行っており、周辺医療機関より好評を得ています。



手術室

手術室は11部屋あり、1部屋はハイブリット手術室になっています。ハイブリット手術室では、ステントグラフトなどを実施しています。診療科は外科、心臓外科、脳神経外科、婦人科、整形外科等多岐に渡っています。

2012年度は、手術件数7434件となりました。

新しい手術のダヴィンチや経皮的動脈形成術などにも積極的に取り組んでいます。

緊急手術も20%程度あり昼夜とわず手術に対応できるように、勤務体制を2交代制とし、患者さんにとって安全な手術が提供できるようにスタッフ一同努力しています。

呼吸療法部

呼吸障害のある患者さんに対し、診療科を問わず治療ケアチームの一員として活動しています。呼吸療法部の構成は、3学会呼吸療法認定士の資格を持つ、看護師、理学療法士、臨床工学技士で、交代で各々の専門性を活かしながら業務にあたっています。

主な業務内容は、周術期のケア、人工呼吸器の管理・離脱への補助、慢性呼吸不全患者の指導、在宅酸素療法の導入、呼吸リハビリテーション等です。急性期から慢性期までの多種多様の呼吸ケアに取り組んでいます。また、院内スタッフへ勉強会の実施や日々の呼吸ケアに対しての相談に対応し、院内スタッフの知識・技術の向上に寄与出来るように努めております。

今後も患者さんの呼吸障害に対する不安が軽減出来るように、病棟・他職種との連携を図り質の高い呼吸ケアを提供できるように努力して参ります。

■診療実績

介入件数：389件／年

■教育・セミナー

- ・シュミレーション教育 『人工呼吸器・NPPV勉強会』
- ・新人医師教育 『吸引』、『酸素投与器具』
- ・新人看護師教育 『人工呼吸器・NPPV勉強会』
- ・院内認定コース 『呼吸ケア』
- ・呼吸療法セミナーin湘南2012
- ・呼吸療法セミナーin湘南アドバンスコース2012

NICU

NICUは9月1日に開設した、早産児や低出生体重児、疾患を抱える新生児に対し、専門的で高度な治療と看護を行う6床の病棟です。

モニタリングによる循環・呼吸管理や、輸液・栄養・排泄管理といった児の全身管理とともに、成長・発達を促すディベロップメンタルケアや、ご家族の気持ちに寄り添うファミリーケアも大切にしています。

今までは、早産や低出生体重児の場合、当院から他の病院へ母体搬送・新生児搬送することが多くありました。時には神奈川県外にまで搬送することもありました。当院で出産したいという妊婦さんの希望を一人でも多くかなえられるように、私たちは知識と技術をもっと高めていく必要があると考えています。

生まれたばかりの赤ちゃんとの離れなければいけない、ご家族のつらさに思いを寄せ、一日でも早く、ご家族のもとへ赤ちゃんをお返しできるように、チーム一丸となって日々努力しています。

今は主に当院で出産した妊娠34週以上の児を受け入れています。今後は院外で出生した児の受け入れや、受け入れ妊娠週数の拡大を目指していきます。

ER

病院の理念の元、救急患者を断らない医療を行っています。1次救急から3次救急までどのような患者でも受け入れています。

1月からは救急認定看護師を迎え、救急の基礎教育の充実とレベルアップをめざし、勉強会や災害訓練やシミュレーションを繰り返し行っています。

救急車は平均40台／日で年間13000台以上を受け入れています。

救急総合診療科では救急車で搬送される患者さんの他に、外来で来院され救急診察が必要な方も診察しています。その方々には、看護師がトリアージを行う、緊急性かつ重症度の高い方を、優先して診察が出来る体制にしています。

医師・看護師・救命救急士・看護助手が連携をとりながら、チーム全体で患者さんや患者さん家族に対応しています。今後もさらに専門性を高めて地域の方々に満足して頂けるように、日々のスキルアップに努めています。